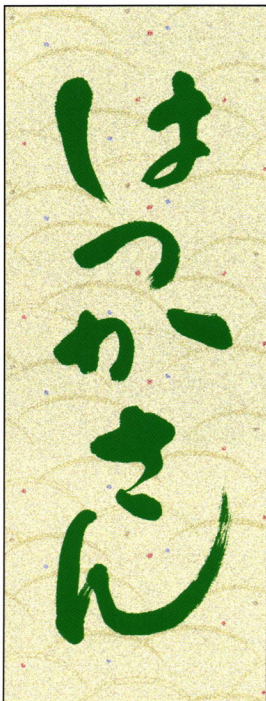
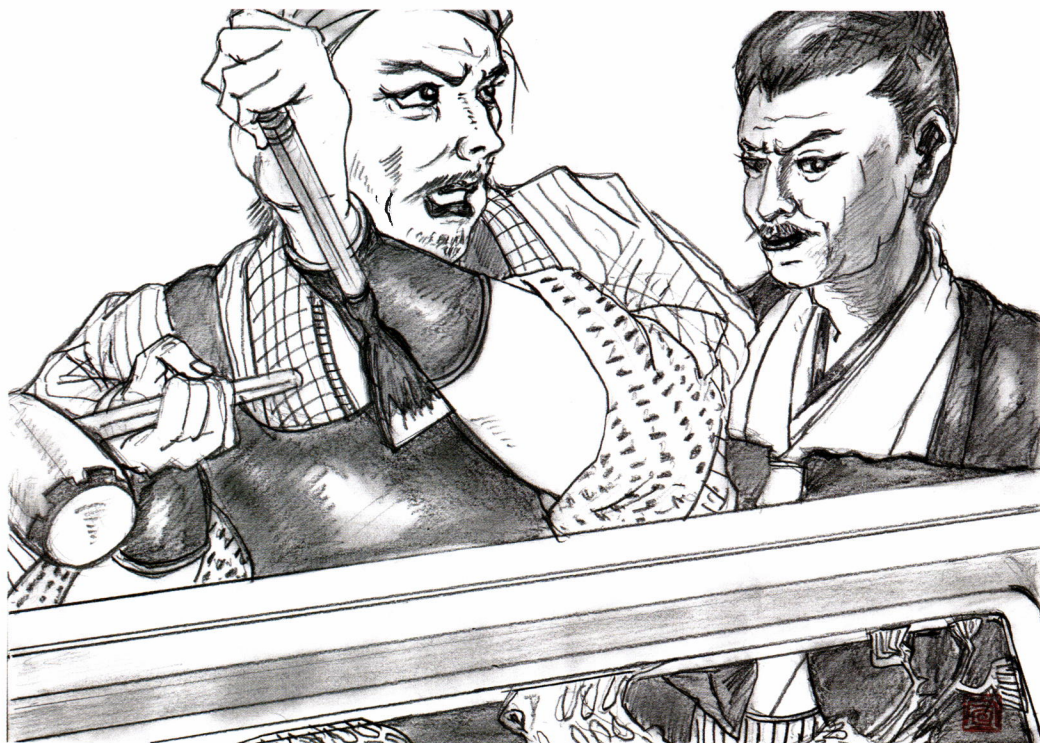


～天津民話紀行～ ③
名工・鶴の巢籠 (柏尾)



第 26 号
発 行
天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会
印 刷
米子ワークホーム

柏尾の植田家に普段は蔵の奥深くに収蔵してあるが、年に一度公開される絶妙の名品があります。表の間と仏間との間にある欄間彫刻で高さ二尺幅二枚一組の『鶴の巢籠』です。これにまつわる伝説を紐解いてみましょう。

時は明治中頃、連綿と流れる法勝寺川の清らかな水瀬に架かる柏尾橋の下に、薄汚れた一人の男が倒れていました。

通りかかった村人が尋ねると、男は食料の施しを願うのですが、そのことを聞きつけた村の長に「坂根の観正寺に行つて願うがよい。」と言われ寺に行き、方丈さんに懇願しましたが「念佛が唱えられないので寺に置くことができない。そうだ、柏尾の植田家に行つて食べさせて頂き、何か役に立つことを行えば良い。」と諭されました。そこで男は、植田家で食扶のお札に欄間彫刻を願うと当主は喜んで快諾しました。

全力で彫っているなると覗いて見ればカンナくずの中に寝ている。近所の持田さんも訪れて「好き放題のヤドカリ男」に「彫るなら一気に掘ったら！」と諭したものの「彫刻なんてものは、構想があるだよ。夢がああだよ。閃きあらばノミが動くだ。」と明日は明

日の風が吹く…の毎日でした。

そして、月日が流れたある日、『松の枝に巢籠の鶴と餌を運ぶ雄鶴、松の枝の雄々しさと迫力と品、鶴の目には象が、くちばしは金箔押し』の末代まで子孫繁栄を祈る、重厚にして品格ある名品が人と人との絆で完成し、その存在感は訪れる人を感動と芸術の粹に酔わせました。気さくな温かさで接する植田家当主彦三郎に主従の情けを受け、巧みな才腕で恩返ししたこの人こそ、往時全国でも有名だった欄間額の希代の名工「荒川亀齋」だと言ひ伝えられています。

実際は、明治三十六・三十七年に、設計の井尻の富次伝造、棟梁の植田栄三郎と「兼久の流れ橋」で名を馳せた生田栄三郎が依頼し、製作したとされ、これが伝承口伝と異なる「真実史」です。

荒川亀齋の作品は、シカゴ博覧会で大賞に輝いた『櫛稲田姫命図』が出雲大社蔵にある他、安来清水寺三重塔三郭に『龍の彫り物』や『阿弥陀像』教材用の『大算盤』が保管されています。

おしまい

(作・画 野口 宣友)



清水川農事生産組合
大国稲刈り
 〓

春に植えた古代米も、秋の訪れと共に稲穂がこうべを垂れました。

十月十三日(月) 体育の日に、清水川の田んぼで稲刈りが行われました。台風十二号の影響で、雨風が激しい中、清水川神社の山本宮司による祭事のもと、大国主命の神楽を奉納して稲刈りが始まりました。

遠くは東京、岡山から復活再生の『清水井』のパワーを受けようと、約三十名の方に集まっていたきました。

十一時から始まった稲刈りとハデかけの作業は、雨のために田がぬかるんで歩くのも不自由な状態で、十二時三十分にはズブヌレで終わりました。その後、清水川公民館で、コシヒカリと、ひとめぼれの新米のおにぎりと豚汁、いったって簡素な昼食でしたが、コメ本来の味を知ることが出来たと好評でした。お土産に特別栽培のコシヒカリ1kgを持ち帰っていたいただきました。

次は五穀米にして、参加いただいた皆様にお届けできればと、スタッフ一同新たな試みに挑戦する予定です。

あの人この人
 たけなみ ゆきのぶ
武海幸信さん(四季)



私とスノーボードとの出会いは、小学四年の冬になります。その後、シーズン中は毎週のように大山に上って練習を重ねました。小さな大会にはその頃から参加していましたが、中学生になり野球クラブに入った為、スノーボードには殆ど行かなくなっていました。

高校入学後、あることがきっかけで再びスノーボードを始めることにしました。競技スポーツでの目標を作り、それを実現させるために努力することが、その時の私には必要だったので。そして、以前スノーボードを教わった先生や、大会参加の為にクラブに所属

させて頂いた方など、周囲の方々のご協力を頂いて順調に上達し、スノーボードの西日本大会で優勝を飾ることができました。同時に、全国大会への出場権を獲得したのです。

それから二年連続して、震災後の福島県で開催された全国大会に参加できたことは、とても良い経験になりました。この場をお借りして、改めてご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございます。これからも様々な活動を頑張っていきたいと思えます。



南部町消防団 第3分団



今回は、南部町消防団第三分団について紹介させていただきま

す。

我々は、団員二十名で活動しており、南部町消防団八分団（本部分団含む）の中の一つとして、消防ポンプ車を谷川地区（ふるさと交流センター前）に置き、天津、東西町、大国地区の戸数1,477戸、人口4575人の南部町内でも二番目に広い地区を担当地区としています。

団員全員が本業を持ちながら、消防団として通常の火災はもとより、台風や豪雨などの風水害、さらには大規模地震まで、様々な災害に対して『安心・安全なまちづ

全国的に消防団員不足が言われている中で、我々第三分団は私を含めベテラン団員が多く、新人団員四名が入団しましたが、平均年齢が四十歳と高くなってきているのが問題です。本誌を読んでいただき入団希望の方は歓迎いたしますのでよろしくお願いいたします。

（第三分団分団長 桑名尚人）

昨年、毎月三回消防車の保守点検や放水訓練、消防車の赤色灯を点灯し受け持ち区域を巡回して火災予防の呼びかけなど、地道な啓発活動も行っていますが、火災は昼夜問わず発生します。

また、毎月三回消防車の保守点検や放水訓練、消防車の赤色灯を点灯し受け持ち区域を巡回して火災予防の呼びかけなど、地道な啓発活動も行っていますが、火災は昼夜問わず発生します。

昨年、毎月三回消防車の保守点検や放水訓練、消防車の赤色灯を点灯し受け持ち区域を巡回して火災予防の呼びかけなど、地道な啓発活動も行っていますが、火災は昼夜問わず発生します。

『核』を目標とし、地域防災の中心として団員一丸となって活動しています。



Rise (ライズ)



ソフトバレーボール

ふるさと交流センター
利用団体の紹介

こんにちは、私たちはフォレストタウンの仲間を中心に活動しているソフトバレーチーム「Rise」です。

時は遡ること十年前、天津地区ソフトビーチバレー大会に初参加したことがきっかけとなり、みんなが楽しく交流することが目的で活動がスタートしました。

活動していくうちに試合に出ようと盛り上がり、初めて参加した県大会で相手チームのジャンプサーブに翻弄され、場違いな所に来ってしまったと失意の内に帰町し、これではダメだと、本格的に活動を始め少しずつでも進歩していこうとの思いから「Rise」（ライズ）と命名しました。

現在、初期メンバーは半数となくなってしまいましたが、残ったメンバーの友人・知人が加わり十一名で練習しています。

活動していくうちに、天津地区の他のチームからも度々、交流試合や練習にお誘いして頂き楽しませて貰っています。これからも皆さまよろしくお願ひします。

（代表 三嶋 洋）

〈活動場所〉

ふるさと交流センター

〈活動時間〉

毎週土曜日

十九時半～二十一時半

天津公民館によせて③
天津地区文化祭

今年、第三十七回目を迎えた『天津地区文化祭』は、地域の連帯感を養う為のふれあいの場として、また各地区の文化作品やグループを紹介する場として、天津公民館時代から開催されてきました。



展示の様子 (平成1年)

各地区から手芸・盆栽・絵画などの作品展示や、シイタケ・野菜・漬物などを販売する無人市、婦人会のバザーによるドーナツ・ポン菓子などが販売され、大人から子どもまで大勢の方で賑わっていました。

また、様々な場で活躍されている講師の方を招いての講演会や、地区内のカラオケ自慢が一堂に会してそれぞれの喉を競い合う『天津歌謡選手権』や、『チビッ子歌合戦』が行われ、会場を大いに盛り上げていました。

平成四年に場所をふるさと交流センターへ移してからは、各集落持ち回りで屋内・屋外バザーが行われたり、『天津交流ミニコンサート』で各教室や集落代表の出し物が披露されるようになりました。

農村地帯活性化の為に行われるようになった文化祭ですが、毎年の恒例行事となり、天津地域振興協議会に変わった今でも、秋の収穫祭と合同で「文化の秋・実りの秋を満喫しよう!」と開催されるようになりました。今でも地区民のふれあいの場として多くの来場者が訪れ賑わっています。

(文責 野口 勝樹)

無人市でお買い物



チビッ子歌合戦



お茶席でおもてなし(昭和61年)



編集後記

今年、米の農協買い取り価格が下がって、ほとんどの農家が赤字という状態だと聞いています。

これは、全く単純な計算なのですが、東京首都圏の人口が千二百万人、南部町の千倍の人口です。発想の転換をして、化学肥料や農薬を極力抑えた米(いわゆるエコ米)を60kg 11二万円でも買いたいという人が南部町に一人いれば、首都圏ではその千倍の千人がいる。ということは、高くても買ってくれる消費者を見つければいいのではないのでしょうか。努力次第でいくらでも生産者に見合う値段で売れるということなのです。

これからの農業はいろいろな視点から考えるアイデアが勝負と思えるのです。米の買い取り価格が下がって、来年は米の作付を止めるようなことも聞こえてきますが、田畑は一度荒れたらなかなか元に戻りません。荒らさないように頑張ろうと自分に言い聞かせています。

(畠 稔明)

12月号担当委員

| |
|-------|
| 畠 稔明 |
| 吉村 頼夫 |
| 隅田 将寛 |
| 佐伯 辰巳 |
| 藤原 俊幸 |